

第9回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず<企画シート作成上の注意>をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）ドウシヤダイガク	フリガナ）ショウガクブ	フリガナ）ウリュウハラゼミ
同志社大学	商学部	瓜生原ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
フリガナ）ウンナドウナン？	フリガナ）ハシモトユウスケ	2
雲南どうなん？	橋本侑介	

研究テーマ（発表タイトル）

介護予防における『買い物』の効果』～自己効力感の観点から～

1. 研究概要（目的・狙いなど）

本研究では、高齢者の健康状態を維持する『介護予防』の観点において、『買い物』という行動が、高齢者にどのような影響を及ぼすのかということ、明らかにすることを目的としている。特に従来からアウトカムとして用いられてきた、QOLや厚労省の基本チェックリストにとどまらず、高齢者に自立を促すという視点から、自己効力感という考えを新たに取り入れた。

本研究の狙いとしては、介護予防における買い物の実証することで、提供できる介護予防サービスの幅を広げ、高齢者により適した予防を行えるようにすることである。

本研究では先駆けてショッピングをリハビリの一つとして取り入れている光プロジェクト株式会社さまにご協力いただき、介護予防における買い物の実証を試みた。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

近年、買い物をすることで認知症予防や運動不足の効果があると期待されている。買い物というのは、日常的な活動であり、あまり運動などの効果はないように思えるが、実際に他の客や商品に当たらないように歩く、お金を計算する、といった多彩な動作が組み合わされている。また『高齢者にとって、毎日の繰り返しの中に存在する日常的な動作を継続し、維持していくことが、健康や生活の質を確保するのに極めて重要』（下村ほか 2003）ということも示されている。

しかしながら、現在の介護保険法においては、介護度が高い高齢者に対して、買い物支援サービスを提供することは可能であるが、自立度が比較的高い高齢者に対しては、支援サービスを提供することが難しい。従って、介護予防の対象となるような介護度が要支援1、要支援2のような人たちに、買い物サービスを提供することが難しいということである。

しかしながら『買い物』が、介護予防として効果がある、QOLの向上につながるということが明らかになれば、より積極的に買い物支援が可能になったり、介護予防として買い物をすることで、より豊かな生活を送るきっかけを与えることができるかもしれない。

現状として、物資の調達という意味合いに終始している買い物を再定義することで、買い物の可能性を広げたい。

3. 研究テーマの課題

本研究における課題としては、『買い物』という大きな活動、多彩な要素が含まれる活動をどのように捉え、測定するかということである。この研究の結果として、介護予防の在り方やより高齢者にとってよい効果を持つという観点から、単純に満足度や楽しいという評価だけでは足りないと考えられた。また介護予防教室の多くは、厚労省の基本チェックリストをアウトカムとしている。そのためどこまで買い物の効果とするのか、という点が非常に難しい。当初からリサーチ計画が練られていたわけではないため、そのような状況においてどのように結果を比較していくべきかを考えなければならない。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

アウトカムの測定に当たって、今回は新たに自己効力感という概念を取り入れた。介護予防において、目指すところは高齢者の自立とQOLの向上である。その点において「介護予防の目的を達成し、高齢者の自立を育むためには、虚弱になった高齢者自身で「できる」という認知し行動に移せるように、つまり自己効力感としての効力予期を高めるように支援することが必要であると考えた」と尾形（2008）が述べるように、自己効力感という概念を取り入れることが重要であると考えられた。また自己効力感とQOLには相関関係があることも示されており、より自己効力感がQOLに関係していることが示唆された。そこで本研究では新たに『買い物に対する自己効力感』とQOLの関係を調べることで、新しく買い物の効果を実証することを試みた。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

研究方法として、質問用紙を用いた定量調査を行った。対象は島根県雲南市のショッピングリハビリに参加している群と、ショッピングリハビリではない介護予防教室3施設に参加している群25名を対象とした。

アンケート内容は、基本情報として、性別、通っている介護予防教室、普段の買い物手段を聞いた。

信頼性と本研究が予防教室を対象としていること、買い物を対象としていることから、表のようにQOL尺度、自己効力感尺度、買い物に対する自己効力感尺度より構成している。（表1）

表1 アンケート項目

	次元	概要	項目数
従属変数	QOL	高齢者生きがい感スケール	13
	自己効力感	高齢者の自己効力感尺度	16
独立変数	買い物への自己効力感	FESの買い物に関する項目	3
属性	個人属性	性別・予防教室	2

分析はSPSSを用いて行った。ショッピングリハビリに参加している群と参加していない群の『買い物に対する自己効力感』の差についてt検定を用いて分析した。また『買い物に対する自己効力感』、QOL尺度、QOL下位尺度に関して、各変数間の相関関係を分析した。

倫理配慮としてアンケートの取り方としては、雲南市のショッピングリハビリに関しては、直接アンケートの趣旨を説明し承諾いただいた方のみアンケート調査を行った。その他の施設に関しては施設の方に郵送し、承諾いただいた方のみアンケートをとるということに合意していただき、協力していただいた。

6. 結果や今後の取り組み

結果は、QOL の下位尺度である「生活意欲」についてショッピングリハビリ参加者とそれ以外に有意な差が認められ、ショッピングリハビリ参加者のほうが高い値であった。効果量についても、中程度の効果が見られた。しかし、買い物に対する自己効力感には違いが見られなかった。(表2)

表2 介護予防教室と各尺度の差

	全体 <i>n</i> = 78		SR <i>n</i> = 53		SR以外 <i>n</i> = 25		t値	効果量 (<i>r</i>)	
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD			
自己効力感	3.07	0.39	3.08	0.502	3.04	0.403	0.343	.05	無
買い物自己効力感	3.07	0.47	3.07	0.608	3.24	0.597	-1.129	.16	小
QOL	3.13	0.61	3.07	0.372	3.06	0.306	0.146	.02	無
・生活意欲	2.50	0.29	2.55	0.289	2.39	0.267	2.380*	.32	中
・自己実現	2.50	0.29	2.51	0.301	2.48	0.276	0.446	.06	無
・存在感	2.82	0.63	2.84	0.604	2.78	0.679	0.352	.05	無
・生きる意欲	4.45	1.03	4.4	1.091	4.54	0.907	-0.57	.08	無

相関に関しては自己効力感、買い物自己効力感と QOL、QOL 下位尺度において有意な相関が認められている。買い物自己効力感が高いほど、自己実現の機会、コミュニティでの存在感、生きる意欲が増し、QOL が高まると解釈できるだろう。(表3)

表3 変数間の相関

	自己効力感	買物効力感	QOL	生活意欲	自己実現	存在感	生きる意欲
自己効力感	—	.640**	.355**	-.060	-.054	.503**	.271*
買物効力感	.566**	—	.384**	-.05	.198	.460**	.282*
QOL	.153	.218	—				
・生活意欲	-.006	-.053		—	.098	-.024	-.032
・自己実現	-.225*	.566**		.109	—	.112	.133
・存在感	.290*	.134		.016	.052	—	.579**
・生きる意欲	-.027	-.021		-.03	.075	.513**	—

表中右上が相関係数、左下が偏相関係数

p*<.05, *p*<.01

結果としてショッピングリハビリ参加者とそれ以外の予防教室とでは、買い物に対する自己効力感に違いは見られなかった。今後の取り組みとしては、『買い物』における状況を考えていく必要があると思われる。週一回の買物ということだけでなく、その買物の内容や、どのような要素が買い物に含まれていれば、自己効力感の醸成に繋がるのか、ということ仮説を立てて研究したい。また、買い物に対する自己効力感の介護予防における効果に関してもまだ検証できていないため、QOL 以外にも行動や、改善につながる部分があるのかということも検証しなければならない。

7. 参考文献

- 青木邦男「高齢者向け生きがい感スケールの因子構造とその得点の検討」(2009) 山口県立大学学術情報 2 巻 100 頁-107 頁
- 尾形由起子「介護予防事業に参加する虚弱高齢者の自己効力感に関する研究」(2008)福岡県立大学看護学研究紀要 6 (1) p9-p17
- 厚労省「これからの介護予防」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/yobou/index.html
 (2018年10月25日)
- 厚労省 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－
<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html>
 (2018年11月10日)

- 厚労省『介護予防・日常生活支援総合事業 ガイドライン』<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000088276.pdf> (2018年11月11日)
- 澤向 祐貴, 森田 悠介, 矢嶋 昌英, 浅川 康吉, 山口 晴保『地域在住女性高齢者の買い物に対する自己効力感と運動機能との関連性』(2009)生活環境支援系理学療法 18 p3-p193
- 下村裕子、河口てる子、林優子他『看護が捉える「生活者」の視点—対象理解と行動変容の「かぎ」—』(2003) . 看護研究、36 (3) 、p25-37
- 野口多恵子、深谷安子「要介護老人のできる ADL」と「している ADL」の差に影響する心理・社会的要因について」(1995) 日本看護科学会誌 J. Jpn. Acad. Nurs. Sci., Vol.15, No.2, p 49-57
- 光プロジェクト株式会社 <https://hikari-project.co.jp/>
- 蘭直美 「買い物行動が主観的 QOL に与える影響の検討—地域女性高齢者の買い物行動の分析調査から—」(2015)共創福祉 (2015) 第 10 巻 第 1 号 p1 - 13
- 島根大学医学部第三内科 Cognitive Assessment for Dementia, iPad version 2: CADi2 Manual ver2.<https://www.shimane-u-internal3.jp/usr/imgbox/PDF/20151013153443.pdf> (2018年11月10日)
- 品川区 <http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/ct/other000082700/h29kaigohokenzaitaku.pdf> (2018年11月11日)

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

●発表時に使用する成果物 (例. 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート)

【企画シート作成上の注意】 ※「第9回 西日本インカレ(合同研究会) 大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡します。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版權の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただきます。
- ・電話番号や住所などの個人情報(記載しないでください)。